

# 放射線科研修プログラム

平成 29 年度版

## 【Ⅰ】放射線科(画像診断部門)の診療と研修の概要

・画像診断部門では診断検査の原理、手法、適応、基本的読影法の習得、画像下治療(Interventional Radiology)の研修を実施する。

当科は 6 週間の研修期間にも対応している。

## 【Ⅱ】研修目標

### I. 職業倫理

#### 【到達目標】

1. 社会人として、医師として良識ある行動をする。
2. 患者の権利・尊厳を尊重し、適切な医療を行う。
3. 常に自己を振り返りながら研鑽に努める。

#### 【具体的目標】

- (1) 挨拶をきちんとする。(態度)
- (2) 医師としてふさわしい身なりをする。(態度)
- (3) ルールやマナーを遵守する。(態度)
- (4) 研修の成果を適切に自己評価する。(態度)
- (5) 不足している部分について積極的に学習する。(態度)

### II. 患者—医師関係

#### 【到達目標】

1. 患者、家族と良好な関係を築くことができる。
2. 患者、家族のニーズを身体的・心理的・社会的側面から把握できる。
3. 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。

#### 【具体的目標】

- (1) 個々の診療場面(病棟・外来・救急外来)において適切な医療面接を行える。(技能)
- (2) 患者、家族の訴えをよく聴き、苦痛や不安について共感的に理解する。(態度)
- (3) 検査や治療について適切に説明し、インフォームド・コンセントを得ることができる。(主として 2 年目)(技能)
- (4) 患者の個人情報の管理に留意する。(態度)

### III. 安全管理

#### 【到達目標】

1. 常に安全な医療を心がける。
2. 医療安全に関するルールを理解し、遵守する。
3. 個々の場面において自分のできることとできないことを判断し、適切な行動をとることができる。

#### 【具体的目標】

- (1) 医療安全マニュアルに基づいて個々の医療行為を行う。(態度)
- (2) 個々の医療行為に際して、定められた確認(患者確認、指差確認)の手順を確実に実施する。(態度)

- (3) 医療現場における確実な情報伝達に留意する。(指示を明確に。口答指示は手順を守り、確実に伝わったことを確認する。)(態度)
- (4) スタンダード・プリコーションを理解し、実施する。(態度)
- (5) 不確実なこと、自己の能力を超えることを強行せず、指導者に援助を求める。(問題解決、態度)

#### IV. チーム医療

##### 【到達目標】

1. 診療チームのメンバーと良好な関係を築く。
2. 診療チームにおける自己の責任を果たす。
3. チームのメンバーや、他施設の人と適切に情報交換を行う。

##### 【具体的目標】

- (1) チーム医療における自己の責任を果たす。(態度)
- (2) チーム医療のメンバーと適切にコミュニケーション(報告、連絡、相談)する。(態度)
- (3) 場面(回診・カンファレンスなど)に応じて適切に症例呈示を行うことができる。(技能)
- (4) 診療録、退院サマリーを遅滞なく適切に記載する。(問題解決、態度)
- (5) 紹介状、他科紹介、返事を適切に作成できる。(解釈)
- (6) コメディカル、後輩医師、学生に対して教育的配慮をする。(主として2年目)(態度)

#### V. 医学知識

##### 【到達目標】

1. 頻度の高い疾患や病態について放射線科領域に関連の深いものについての知識を身につける。
2. 基本的な検査法について放射線科領域に関連の深いものについての知識を身につける。
3. 個々の患者について、画像所見を適切に解釈・評価できる。
4. 個々の患者について、報告書の作成、鑑別診断、検査の立案ができる。
5. 臨床的に頻度の高い疾患の画像所見を理解する。

##### 【具体的目標】

- (1) 以下の検査法について、その意義、実施法、異常所見の意味を理解する。(解釈)
  - [1] 単純 X 線検査
  - [2] 造影 X 線検査(消化管造影、血管撮影)
  - [3] X 線 CT 検査
  - [4] MRI 検査
  - [5] 核医学検査

#### VI. 診療技能

##### 【到達目標】

1. 基本的な診療技能(医療面接・身体診察・検査手技・治療手技)を身につける。

##### 【具体的目標】

- (1) 放射線科的診察を適切に実施できる。(技能)
- (2) 患者の精神症状を適切に把握できる。(技能)

#### VII. 医療の社会性

##### 【到達目標】

1. 保健医療法規・制度を理解し、遵守する。
2. 医療保険、公費負担医療を理解し、コスト意識を持って適切に診療する。

### 【具体的目標】

- (1) 保健医療法規にのっとり適切な診療をする。(問題解決、態度)
- (2) 医療保険、公費負担制度を理解する。(想起)
- (3) 医療資源を無駄遣いしないように留意する。(態度)

### Ⅷ. 経験目標

当科研修中に経験してほしいもの。(○:ほぼ全員経験可能、△:チャンスがあれば経験可能)

項目	研修期間			
	1か月	1.5か月	2か月	3か月以上
《画像診断》				
単純写真	○	○	○	○
CT検査	○	○	○	○
MRI検査	○	○	○	○
消化管造影	○	○	○	○
核医学検査	○	○	○	○
血管撮影(IVRを含む)	第2助手	第2助手	第1助手	第1助手
CT下ドレナージ	第2助手	第2助手	第2助手	第1助手

### 【Ⅲ】 研修方略

#### I. 指導スタッフ

##### 画像診断部門

氏名	職位	略歴など	専門領域
横山健一	教授・診療科長	新潟大卒	呼吸器、心・大血管
土屋一洋	客員教授	北海道大卒	中枢神経
黒木一典	保健学部兼任教授	聖マリアンナ医大卒	IVR、心・大血管
片瀬七朗	講師	杏林大卒	中枢神経、骨軟部
本谷啓太	保健学部兼任講師	杏林大卒	骨軟部
増田 裕	学内講師	杏林大卒	IVR
石川牧子	助教	聖マリアンナ医大卒	頭頸部
林 真弘	助教	杏林大卒	骨軟部
大原有紗	助教	杏林大卒	頭頸部
五明美穂	助教	杏林大卒	中枢神経
立石秀勝	助教	杏林大卒	IVR
苅安俊哉	助教	杏林大卒	心大血管、救急画像、IVR

#### II. 診療体制

CT、MRI、核医学、血管撮影、消化管造影、単純写真などの検査と読影を行っている。

### Ⅲ. 週間予定

#### 画像診断部

時	月	火	水	木	金	土
8	画像カンファ ランス  読影・検査	消化管造影 検査・読影	ATT 画像 カンファランス	消化管 検査・読影	IVR カンファ ランス 検査・読影  教育 カンファランス	消化管造影 検査・読影
9			核医学 検査・読影			
10						
11						
12						
13	CT 検査・読影	MRI 検査・読影	血管撮影 検査・読影	CT 検査・読影	MRI 検査・読影	研究会など
14						
15						
16						
17						
18	医局会					
19						

\*研修内容は適宜変更の可能性あり(希望があれば相談に応ずる)

### Ⅳ. 研修の場所

放射線科読影室、各種検査室

### Ⅴ. 研修医の業務・裁量の範囲

#### 《日常の業務》

1. 予定に従って各検査室に行き、検査を施行する。
2. 検査で得られた画像を読影し、その診断報告書を作成する。
3. 医局会およびカンファレンスに参加する。

#### 《当直・休日》

1. 4週間に4～5回の当直がある
2. 当直の業務は夜間の緊急検査の施行とその画像診断、すなわちCT読影、MRI検査と読影、緊急IVR等である。
3. 当直の翌日の勤務は12時までとする。
4. 4週間に少なくとも2日は完全にduty offとする。

#### 《研修医の裁量範囲》

1. 「研修医が単独で行ってよい医療行為」の範囲内で、単独で行うことを指導医が認めたものについては、指導医の監督下でなく単独で行ってもよい。ただし、通常より難しい条件(全身状態が悪い、医療スタッフとの関係が良くない、数回試みたが失敗した、など)の患者の場合には、すみやかに指導医・上級医に相談すること。
2. 検査指示は、必ず指導医・上級医のチェックを受けてから行うこと。
3. 診断報告書の記載は、かならず指導医・上級医のチェックを受け、サインをもらうこと。

### Ⅵ. その他の教育活動

1. CPC やリスクマネジメント講習会などの院内講習会には、当直であっても積極的に出席する。その間の業務は指導医・上級医が行う。
2. 興味深い症例などを受け持った場合、学会、研究会などで報告してもらうことがある。

## 【V】 研修評価

研修目標に挙げた目標(具体的目標)の各項目について、自己評価および指導医による評価を行う。なお、指導医が評価を行うために、コメディカル・スタッフや患者に意見を聞くことがある。

評価は「観察記録」、すなわち研修医の日頃の言動を評価者が観察し、要点を記録しておく方法により行い、特に試験などは行わないが、最低1回の症例提示(発表)を行う。研修終了時に指導医が研修医と面談し、研修のふりかえりを行う。評価表は卒後教育委員会に提出され、卒後教育委員会は定期的に研修医にフィードバックを行う。

上記以外に、研修目標達成状況や改善すべき点についてのフィードバック(形成的評価)は、随時行う。

## 【VI】 その他

当科の研修に関する質問・要望がありましたら下記の臨床研修係に御連絡ください。

臨床研修係: 荻安俊哉  
木下雄介